

2020年12月2日
株式会社リクルートキャリア
株式会社リクルート住まいカンパニー

人生を見つめ直した人は7人に1人 コロナ禍で変わる価値観、働き方・住まい方を見直す人が増加中 これからの新たな潮流 「クラシゴト改革」

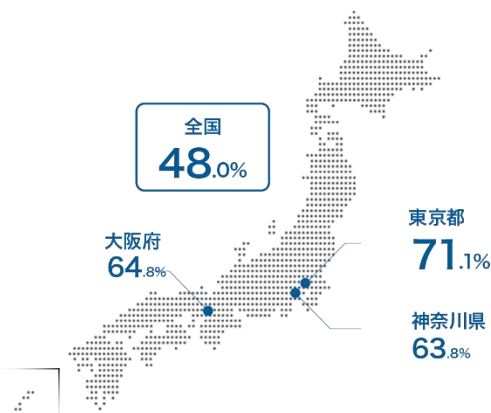
株式会社リクルートキャリア（本社：東京都千代田区 代表取締役社長：佐藤 学）と株式会社リクルート住まいカンパニー（本社：東京都港区 代表取締役社長：浅野 健）は、アフターコロナを見据えたこれからの暮らし方の新たな潮流として、「クラシゴト改革」をキーワードとして発表しました。

【背景】

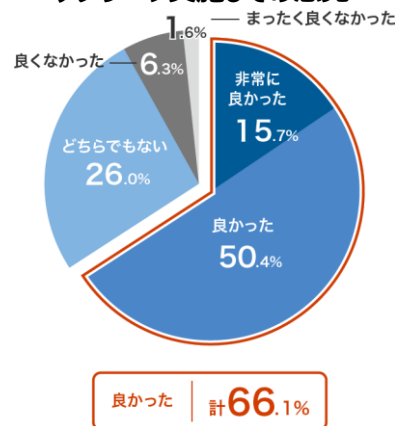
テレワークの加速を起点とした変化【働き方】

新型コロナウイルス禍の緊急事態宣言を機に、テレワークが加速。全国で48.0%、東京都では71.1%がテレワークを経験するに至りました。また、自己の判断で自由にテレワークできるようになった人の6割以上がこの変化を「良かった」と捉えています。

テレワーク実施率



テレワーク実施しての意見

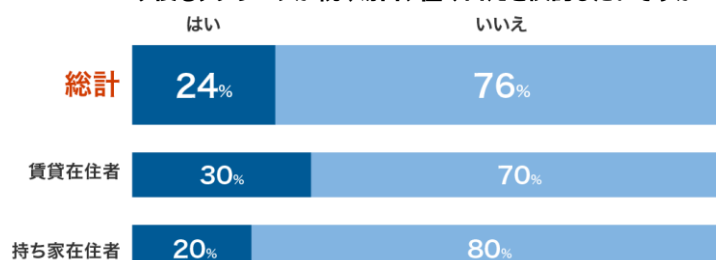


出典：『新型コロナウイルス禍での仕事に関するアンケート』2020年 リクルートキャリア調べ

テレワークの加速を起点とした変化【住まい方】

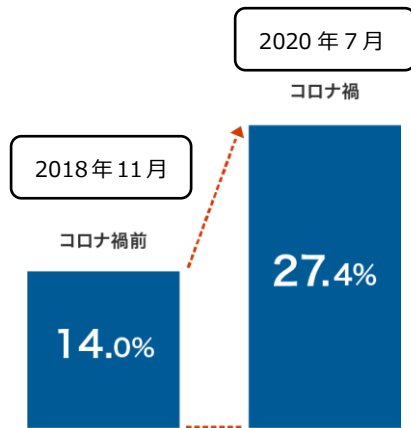
毎日会社に行く必要がなくなったことで、住まいに対する価値観にも変化が見られました。今後もテレワークが続く場合、4人に1人が住み替えを検討したいと回答しています。

今後もテレワークが続く場合、住み替えを検討したいですか？



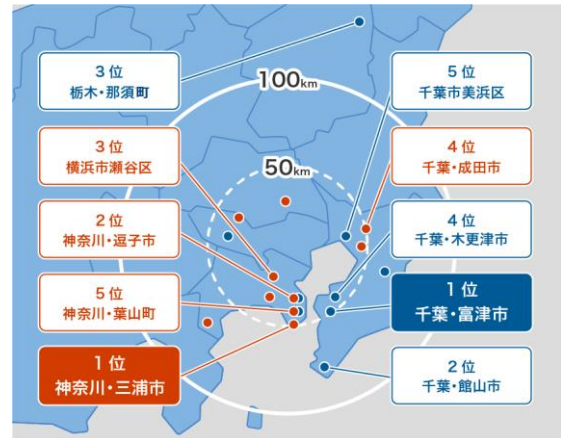
『新型コロナ禍を受けたテレワーク×住まいの意識・実態調査』リクルート住まいカンパニー調べ

また、二拠点居住や都心以外の暮らしに対する関心も高まりをみせています。二拠点生活（デュアルライフ）意向者は2018年11月に実施した調査時より13.4ポイント増加。（図表左）『SUUMO』の物件詳細閲覧数を、2020年1月と8月で比較した際の伸び率をランキング化すると、中古マンション・中古戸建てともにTOP5のエリアが都心から100km圏内の郊外エリアが上位を占めました。（図表右）



デュアルライフ意向者

『デュアルライフ（2拠点生活）に関する意識・実態調査』と
2020年7月実施調査の比較 リクルート住まいカンパニー調べ

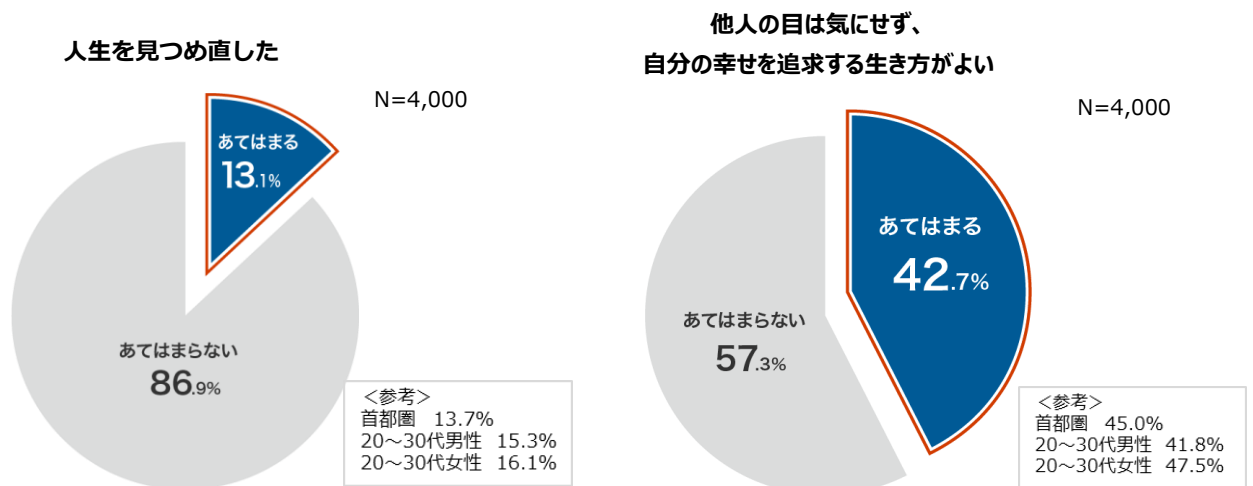


赤：中古マンション 青：中古一戸建て

人々の価値観にも変化が

仕事や暮らしの自由度や裁量度が増したことで、改めて人生を見つめ直し、幸せを追求する人が増えてきています。緊急事態宣言前（2020年3月以前）と緊急事態宣言解除後（2020年5月以降）の変化について聞いた調査によると、「人生を見つめ直した」と回答した人が13.1%いることがわかりました。

また、日ごろの考え方として42.7%の人が「他人の目は気にせず、自分の幸せを追求する生き方がよい」と回答しています。



『コロナ禍を受けた住まいと暮らしの価値観調査』 リクルート住まいカンパニー調べ

【これからの暮らし方】 ~キーワードは「クラシゴト改革」~

コロナ禍でのテレワーク浸透をきっかけに「時間」も「場所」も自由裁量が広がり、暮らしや仕事を見直す人が増えてくる。そうした中で、「幸せ」を求め、やりたいこと、大切にしたことへ、生き方をシフトし、生き方そのものを丸ごとデザインし直す人が増えるといえるでしょう。そうした「暮らし方」×「働き方」の変化を、「クラシゴト改革」というキーワードにいたしました。

【事例】

コロナ禍をきっかけとした「クラシゴト改革」実践者、コロナ禍よりも前に実践されていた方を事例としてご紹介します。

趣味を充実、ワーケーションで、暮らしと仕事を整える

会社員・都内賃貸マンション・ワーケーション



きっかけ：コロナ禍で完全テレワークに。一人暮らしでプチ鬱状態
毎日出社する必要がないなら、趣味のサーフィンを楽しみたい

暮らし方：鎌倉の実家や、小田原、五島列島などでワーケーション
仕事の合間にサーフィンをする生活

サーフィンを楽しむだけでなく、ワーケーション先などでの会社以外の居場所ができたことで、心身ともに整った

会社員として働きながら、夢のフォトグラファーの仕事

会社員・副業・多拠点生活



きっかけ：もともと週末のみ副業で働いていたところ、コロナ禍で完全テレワークとなり時間の余裕が生まれた。

暮らし方：多拠点生活。平日日中はテレワークで本業の仕事、朝夕に副業でフォトグラファーの仕事。

夢だったことに時間がさけることに加え、インプット量が増え、本業にもいい影響が

街の飲食店支援・コミュニティ活動に従事

会社員・埼玉県在住・地元貢献



きっかけ：コロナ禍でフルテレワークに。通勤時間が減ったこと、地元にいる時間が長くなったことで、地元商店に貢献する活動をしたと思うように。

暮らし方：平日はテレワークで本業の仕事をしつつ、お昼休みや浮いた通勤時間を活用して地域のコミュニティ活動に従事。

テレワークで生まれた時間、持っているスキルを活用すれば働くパパが、地域の居場所づくりの中心になれる

子育てもしながら、ふるさとで副業する暮らし

会社員・副業・神奈川県在住・長野県の実家



きっかけ：前職で育休復帰後、働いた時間＝会社への貢献という暗黙の価値観に違和感を感じ転職。縁あって、地元長野県でのテレワーク副業開始。

暮らし方：本業は自分の裁量で仕事をコントロールできるため、副業と両立。子どもが長期休みの際は、子連れで実家に里帰りしテレワークすることも。

個人経営的な働き方ができることで、子育てをしながら副業とやりたいことを実現！

個人の変化だけでなく、企業としてもより豊かな暮らしを送るための支援が始まってきています。「勤務日数短縮制度」の導入や、外部から副業での人材募集をかける等取り組みは会社それぞれとなっています。個人、企業双方の「クラシゴト改革」が進むことによって、より豊かな暮らしへの実現につながると、リクルートキャリア/リクルート住まいカンパニーは考えています。